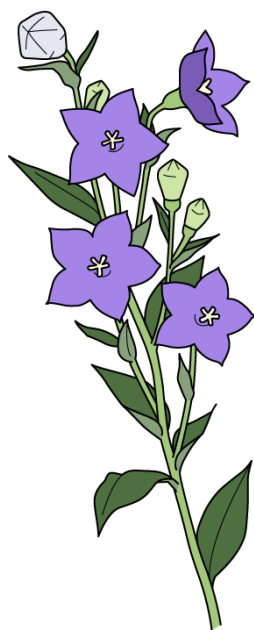


令和3年度
全国学力・学習状況調査の結果と分析



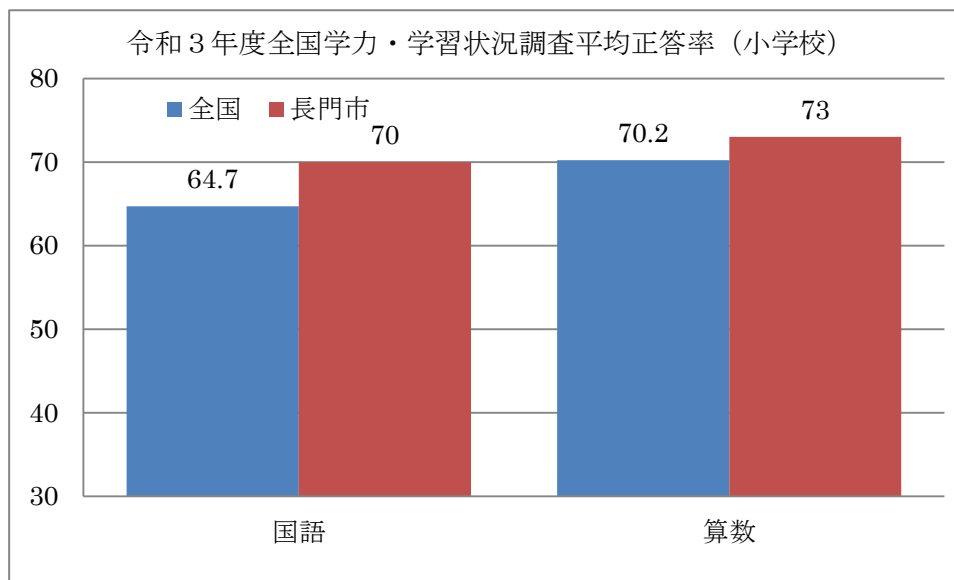
長門市教育委員会学校教育課

学力調査結果についてのグラフの見方

- 調査対象は、小学6年生と中学3年生で、令和3年5月に実施。
- 学力調査結果は、全国と長門市の平均正答率を示している。

1 学力調査の結果 (○：比較的良好にできている点 ●：課題がある点)

(1) 小学校



平成28年度の調査から、すべての教科において、全国平均を上回っている。令和3年度は、国語科において全国平均を5ポイント以上上回った。

(※昨年度、全国学力調査は中止。)

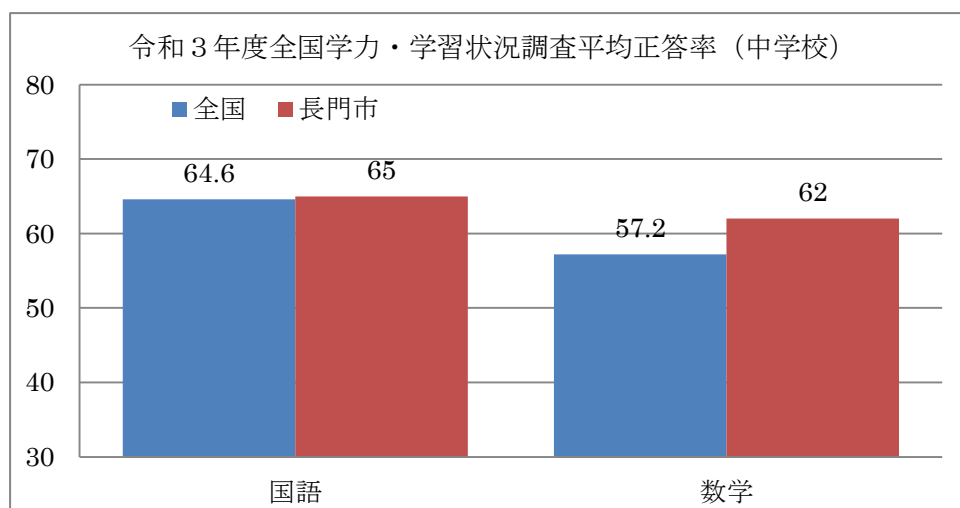
【国語科】

- 思考に関わる語句の使い方を理解し、話や文章の中で使う。
- 自分の主張が明確に伝わるように、文章全体の構成や展開を考える。
- 文の中における主語と述語の関係を捉える。
- 目的に応じ、文章と図表とを結び付けて必要な情報を見付ける。
- 目的を意識して、中心となる語や文を見付けて要約する。

【算数科】

- 条件に合う時刻を求める。
- 示された除法の結果について、日常生活の場面に即して判断する。
- 複数の図形を組み合わせた平行四辺形について、図形を構成する要素などに着目し、図形の構成の仕方を捉えて、面積の求め方と答えを記述する。
- 帯グラフで表された複数のデータを比較し、示された特徴をもった項目とその割合を記述する。

(2) 中学校



平成30年度の調査から、国語科、数学科ともに全国平均を上回っている。
（※昨年度、全国学力調査は中止。）

【国語科】

- 質問の意図を考える。
- 事象や行為などを表す多様な語句について理解する。
- 話合いの話題や方向性を捉えて、話す内容を考える。
- 相手や場に応じて敬語を適切に使う。

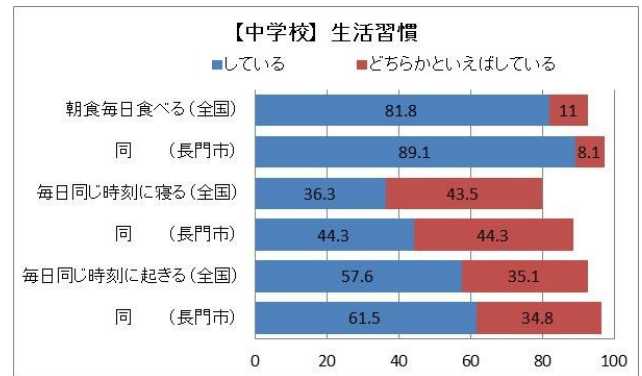
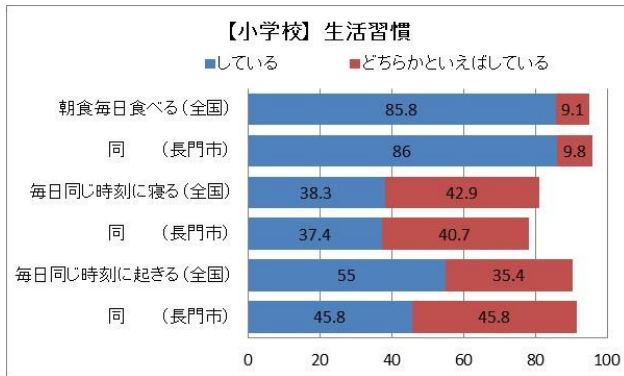
【数学科】

- 問題場面における考察の対象を明確に捉える。
- 与えられた表やグラフから、必要な情報を適切に読み取る。
- 事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明する。
- データの傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明する。

2 児童生徒質問紙集計結果

(○：よい点 ●：課題がある点)

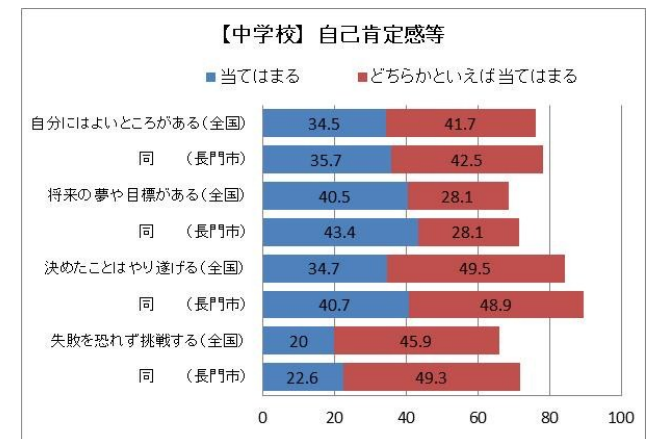
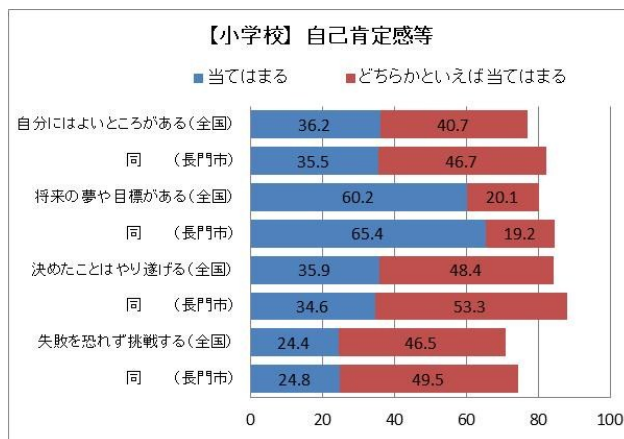
(1) 生活習慣



○朝食を毎日食べる、毎日同じ時刻に起きる児童生徒の割合は、全国と比べて高い。

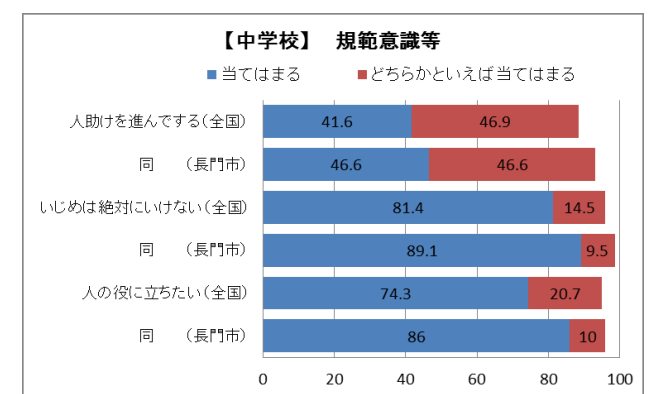
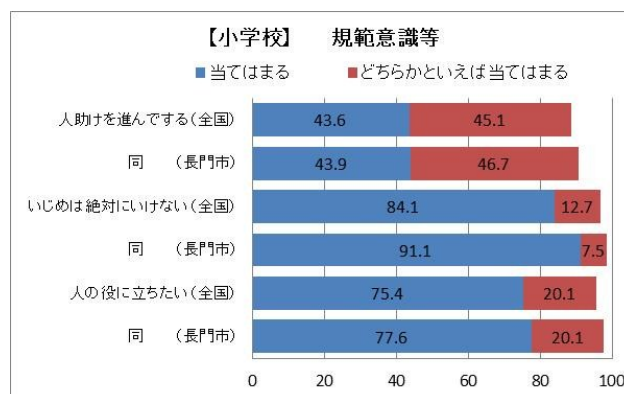
●小学校において、毎日同じ時刻に寝る児童の割合は、全国と比べて低い。

(2) 意識や経験



○自分には、よいところがあると思う児童生徒の割合は、全国と比べて高い。

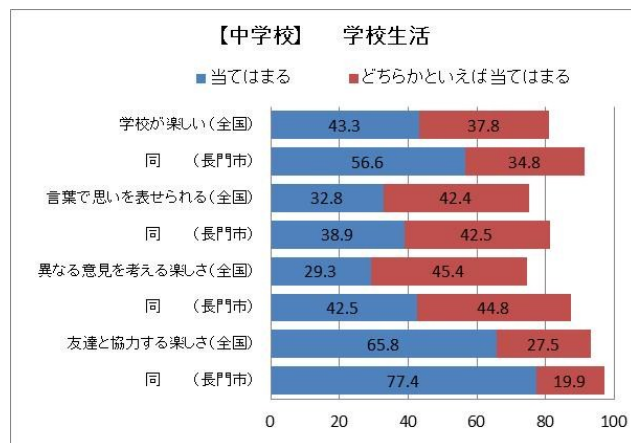
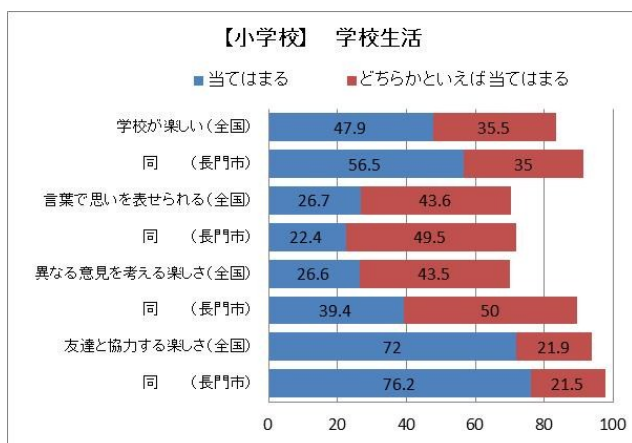
○自分でやると決めたことは、やり遂げるようにしている児童生徒の割合は、全国と比べて高い。



○いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う児童生徒の割合は、全国と比べて高い。

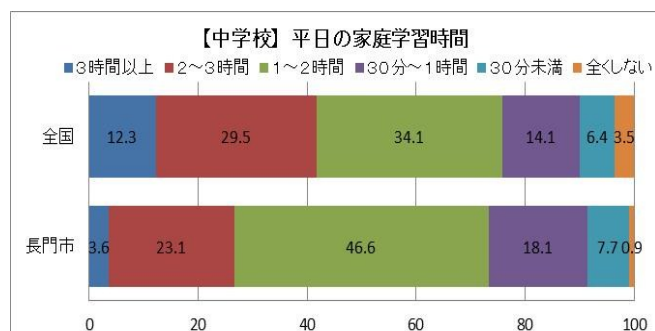
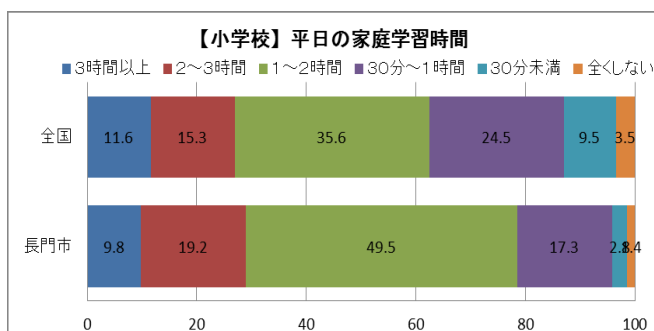
○人が困っているときは進んで助ける、人の役に立つ人間になりたいと思っている児童生徒の割合は、全国と比べて高い。

(3) 学校生活



○学校に行くのは楽しい、友達と協力するのは楽しいと感じている児童生徒の割合は、全国と比べて高い。

(4) 学習習慣

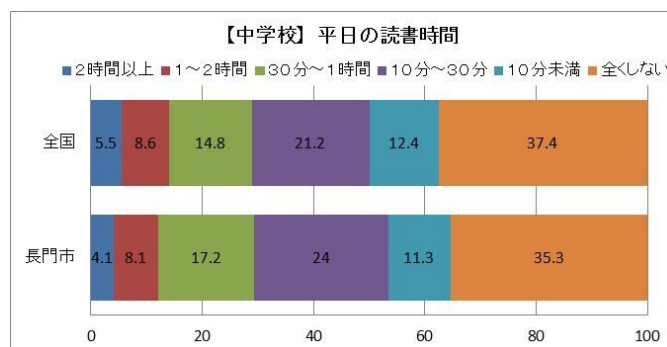
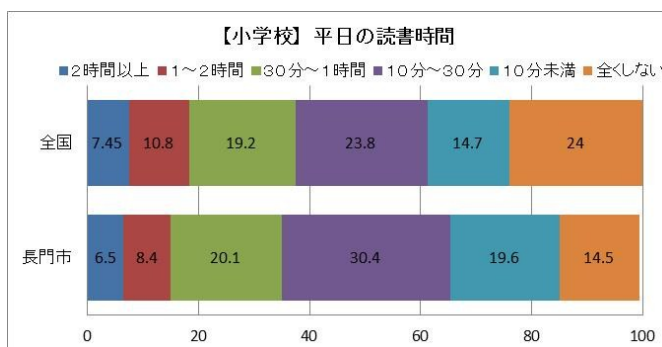


※学校の授業時間以外の1日あたりの勉強時間（学習塾、家庭教師、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）

○小学校では、平日1時間以上の家庭学習をしている児童の割合は、全国と比べて高い。

●中学校では、平日2時間以上の家庭学習をしている生徒の割合は、全国と比べて低い。

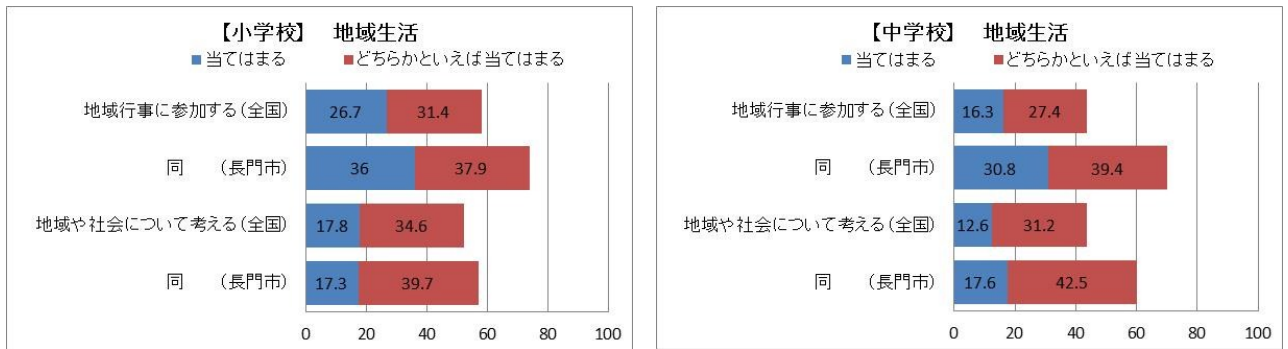
●中学校では、家で自分で計画を立てて勉強する（授業の予習や復習を含む）生徒の割合は、全国と比べて低い。



※学校の授業時間以外の1日あたりの読書時間（教科書や参考書、漫画や雑誌は除く）

●小学校では、平日30分以上読書をする児童の割合は、全国と比べて低い。

(5) 地域生活



○地域の行事に積極的に参加する児童生徒の割合は、全国と比べて高い。

3 学力向上に向けた今年度の取組

(1) 学校での組織的な取組の推進

- ・学校全体で成果と課題を共有し、管理職や学力向上担当者等を中心に組織的な動きをつくり、全校体制で学力向上を推進する。
- ・年間2回実施する市教委主催の「学力向上プラン検討会」において、全小・中学校での取組の検討、各校のプランの見直しを図り、授業改善を推進する。

(2) 教員の授業力の向上

- ・全国学力・学習状況調査の誤答分析を基に、「目的や意図に応じて表現すること、説明すること」の指導の充実に重点を置き、指導方法の工夫改善を推進する。
- ・これまでの教育実践と最先端のICTのベストミックスを図り、1人1台端末を活用した授業改善を推進する。
- ・長門市がめざす「わかる・できる」授業づくりについて、各研修会を通じて市内全教員に共通理解を図る。
- ・学校担当指導主事や学力向上推進リーダーによる効果的な指導方法の普及を図り、小中連携の取組や各校の校内研修を充実させる。

(3) 学校・家庭・地域の連携力の強化

- ・学校運営協議会で学力向上に向けた課題の共有や課題解決の協議を行うなど、地域との連携を図り、地域人材を生かした学力向上に取り組む。
- ・家庭との連携を推進し、家庭学習（時間の確保、自分で計画を立てる等）習慣の定着を図る。また、県教委作成の「やまぐちっ子学習プリント」などを活用したり、授業とリンクした課題に取り組ませたりするなど、家庭学習の充実を図る。
- ・「学校・地域連携カリキュラム」の充実化により、小中の接続や地域との連携を生かした学力向上の取組を推進する。

■調査問題・正答例・結果の詳細等については、下記HPをご覧ください。

- ・国立教育政策研修所 教育課程研究センター 「全国学力・学習状況調査」
- ・山口県教育委員会 義務教育課 学力向上「全国学力・学習状況調査の結果」